

6月28日(日)

2時～5時(1時45分開場) *資料代1,000円
場所: 明治大学 駿河台キャンパス
グローバルフロント1階 グローバルホール

東京都千代田区神田駿河台 1-1 / TEL 03-3296-3452

■ JR 中央線・総武線、丸ノ内線/御茶ノ水駅 徒歩 3分

■ 千代田線/新御茶ノ水駅 徒歩 5分

■ 三田線・新宿線、半蔵門線/神保町駅 徒歩 5分



※記念講演前「1時10分～1時40分」に第5回総会を行います

記念講演: 「イラン戦争」と日本の対米従属下の戦争加害国家化の危機



講師 **吉田敏浩**さん(ジャーナリスト)

主要著作: 『ルポ 軍事優先社会』(岩波新書、2025年)

『追跡! 謎の日米合同委員会』(毎日新聞出版、2021年) ほか著書多数

アメリカとイスラエルがイランに仕掛けた戦争は、国際法・国連憲章に違反する無法な軍事行動であり、侵略です。しかし、高市首相は「法的評価は控える」とし、日米首脳会談ではトランプ大統領をたたえ、イラン攻撃を事実上支持する姿勢を示しました。

それは、日本政府の対米従属ぶりを示すとともに、日本政府が「法の支配」ではなく、トランプ政権の「力による平和」という名の「武力による支配」戦略を認めることを意味します。

米軍が「イラン戦争」に在日米軍基地から出動することも、日本政府は容認しました。それは日本がアメリカの戦争に加担し、戦争加害の側に立つことを意味します。

「イラン戦争」にみられるように、アメリカの「武力による支配」戦略は、欧米と日本の帝国主義・植民地支配の歴史の延長線上にあります。かつてのアジア・太平洋地域での植民地支配と侵略戦争への反省を欠く高市政権のもと、そのアメリカの戦略に追随しながら対中国戦を想定した大軍拡・軍事費膨張が進み、改憲も企図されています。

日本がふたたび戦争加害国家化する危機が迫るなか、かつて「外に戦争、内にファシズム」という軍国路線で戦争の加害者となった結果、被害者ともなったアジア・太平洋戦争(15年戦争)の歴史と、そこにつながる植民地支配の歴史への反省、そしてアメリカの戦略からの脱却すなわち対米従属を脱することの重要性が、いま一層重みを増しています。

沖縄からの発言

新垣 邦雄 さん

(ノーモア沖縄戦 命どう宝の会 事務局長)

共著『虚構の新冷戦 日米軍事一体化と敵基地攻撃論』(芙蓉書房出版、2020年)



コメンテーター

こうけつ あつし
纈纈 厚 さん
(山口大学名誉教授)

『台湾有事は存立危機事態か』
(緑風出版、2026年)



主催 NPO法人 都市無差別爆撃の原型・重慶大爆撃を語り継ぐ会

代表 纈纈厚(山口大学名誉教授)、前田哲男(軍事ジャーナリスト)、

栗遠奎(重慶爆撃犠牲者遺族)、馬蘭(成都爆撃犠牲者遺族)、雷時仁(梁山爆撃犠牲者遺族)

共催 明治大学国際武器移転史研究所

[連絡先] 〒105-0003 東京都港区西新橋 1-21-5 一瀬法律事務所 TEL03-3501-5558, FAX03-3501-5565

E-mail: info@ichinoselaw.com Web サイト http://www.anti-bombing.net ブログ http://blog.goo.ne.jp/dublin-ki

[送金先] ▼郵便振替口座 口座番号: 00190-5-728232 口座名: NPO 法人重慶大爆撃を語り継ぐ会